掃水まちづくり協議会 たより

平成２１年3月19日
掃水まちづくり協議会
NO, ３０

第四回 掃水まちづくり協議会の総会を開催！

日時　四月十二日（日）

総会
一時三十分より三時頃まで

講演会
三時頃より四時半頃まで

場所　ＪＡ松阪本店三階

早いもので、来月で第四回目の総会を迎えることとなりました。この前、皆様にお願いしました住民意識調査でもお分かりのように、行事も年々活発になり皆さんにご協力いただけるようになってまいりました。本当に感謝を申し上げたく思います。これからの取り組みでは、より喜んでいただけるような行事に向けて一層の充実に努めることが大切だと、気を引き締めています。

今年の総会では、参加される皆さんに分かりやすくするために次のような工夫を加えます。

（**その一**）　行事の責任者である実行委員長さんやプロジェクトの代表の方に今年の取り組み状況の報告とできたら来年度の意気込みを発表していただこうと思っています。

（**その二**）　総会の中味を参加の皆さんに分かりやすくするために、三月末までに要項を作り、評議員さんはじめ、参加予定者には、事前に配布します。また、各地区評議員さんたちには、昨年もお願いしましたように各地区の質問や意見を事前集約し、当日の総会で発表していただきます。

（**その三**）　総会の後の講演会では、今、実施している**「できるとこから運動」**をより確実に進めるため、市の清掃事業課の方に具体的、実践的な講演を依頼しました。実際に、ごみを持ってきて会場の皆さんと分別について一緒に考えてみたいと思います。

（**その四**）　講演会には、幼・小・中学校の保護者の皆さん、それに小学校高学年・中学校のみなさんにも参加をお願いしています。ゴミ問題では幅広い多くの皆さんに参加をしていただき、今後の取り組みに生かそうとしています。また、講演会の後では地域の皆さん（二名ほど）にも実際の取り組みを発表していただきます。

スタッフを募集！

掃水まちづくり協議会ではスタッフを募集します。週４～５日の半日程度を市民センター内の協議会事務局で仕事をしていただきます。

仕事の内容は、各種会合の案内文書作り、関係文書綴、新聞「たより」の編集、文書配達などいろいろです。

パソコンのできる方、もしくはできなくても習ってやってみようという方であれば結構です。こちらの方でご指導をさせていただきます。少ないですが手をお支払いさせていただきます。

～ご希望の方～
市民センター（28－2675）まで

ご退職される校長先生よりごあいさつをいただきました

「ふるさと掃水」

掃水小学校長　石川通子

「この頃、子どもたちよくあいさつをするなあ。」「運動会でしょんがい踊り上手に踊れたから夏まつりに子どもだけの踊りの時間とるよ。」等々地域の方は子どもたちにいつも目を向け、見守っていただいています。

学校のめざす子ども像にも「ふるさとを愛する子」があります。ふるさとは幼い日からの思い出。川や野原はもちろんですが、必ず人との関わりの中にあるものです。

子どもたちは、地域の方にこの土地に残る豊かな自然や文化・歴史等を教えていただいています。他にも、交通安全・挨拶なども含め、知り合った地域の方に「こんにちは。この間はありがとう。」と伝えたり、「おばさんに注意されて分かった。」といったこともあります。社会のルールや人の生き方も教えていただいています。本当にありがとうございます。掃水小学校の児童は幸せだなとつくづく感じます。温かく見守ってくださっている人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。

「信頼される開かれた学校づくり」

東部中学校長　松本　実

地域の皆様から「生徒が登下校時によくあいさつをする」という話を何度かお聞きし、生徒の成長を見守っていただいていることを大変ありがたく思っています。

櫛田川クリーン作戦には多くの生徒が参加致しましたが、ボランティア活動を通して地域の皆様と交流を深めると共に恵まれた自然環境について見つめ直すよい機会となりました。また、職業体験学習「わくわくワーク」では多くの店舗や事業所で職業体験をさせていただき生徒の望ましい勤労観や職業観の育成につなげています。このように中学生が地域に出て、様々な体験をすることは、生徒育成の貴重な機会となっています。

学校では今後もホームページで学校の情報を発信しますし、文化祭等の行事には案内のポスターを各公民館等に掲示して広く参加を呼びかけてまいります。地域から理解され、信頼され、地域の風が行き交う学校づくりに努めたく思います。

シリーズ　あいさつ

掃水小学校六年　奥村有紗

いい町は、明るくて、人の交流がある町だと思います。そうするためにはあいさつをする事だと思います。あいさつではようと言うと、今日も一日頑張ろうという気持ちになります。おやすみと言うと、明日もがんばろうと思えます。おかえりと言われると、今日もがんばってよかったと思えます。このようにあいさつをすることに元気になれたり、勇気ももらえます。

だから、あいさつは、とても大切なものだと思います。あいさつによって友達ができたりす

ることもあります。その一言だけで人とのつながりを深めることができます。

わたしは、前までは、はずかしくてあいさつができませんでした。でも、このごろは、小さな声だけどあいさつができるようになってきました。だから、これからは、小さい声でもどんどんあいさつをしようと思いました。

シリーズ　自治会だより
「花のある町、菅生町」

近鉄「櫛田駅」から北へ二㎞程車で走ると、二十数軒余の菅生町が見えてきます。このあたりは昔から水稲栽培を主に営んでおり、「松阪景観百景」の自然的景観にも選ばれる程の田園地帯が広がっています。しかし、全国的な高齢化と過疎化という時代の流れには逆らえず、自作農家の減少で、農家のみでの畦畔や法面の除草作業も疎かになりつつあります。

そんな中、菅生町では県道及び市道の法面等の除草作業を毎年六月と九月の年二回、町民による奉仕作業に加え個人的なボランティアにより行なっています。また、三月には地区内全ての排水路の清掃作業を行い、地域の美化と景観形成の為に、数少ない町民を挙げての奉仕作業によりこの町の景観は保たれています。

法面にさつき苗を植える菅生の皆さん

先月号で紹介のあった国庫補助事業「農地・水・環境保全向上対策のS（精魂の郷）・H（保全）・K（管理）クラブ」の景観形成・生活環境保全の実践活動として、一昨年には菅生町公民館の隣と、菅生町と清水町との中間にある調圧水槽の空き地に、開花期間が長く丈夫なカンナ三百球と、病害虫に強いマリーゴールド百株を植えました。さらに昨年には、菅生町の西を走る都計道路の法面に五百本余りのさつき苗を植えました。

開花するこの春頃には横を通り抜ける人々の目をきっと楽しませてくれることと思います。

自治会だより
「清水町」について
清水町自治会長　北岡　巌

清水町は西方寺、清水神社を中心に約五十戸余りの集落で構成されています。

平成十四年度末、圃場整備事業も終了し、現在は「つつじの清水」作りなど、毎年五ヶ年計画「二ヶ年経過千本植えこみ済み」で植えていく予定です。

さて、清水町には伝統芸能的なものはないようですが、歴史をたどると、昔ながらの旧家もあり、大変多くの土地を持った大地主さんも数件あったそうです。屋号もいろいろ残っており、屋号から想像するといろいろ商売も浮かんできますが、現在はこれといった資料は残っていません。

（清水の近況）

現在、西方寺は新装改築工事がされており、平成二十二年三月末完成予定です。そして清水神社の遷宮も二十二年の四月に予定されています。清水神社は明治四十一年に山添の神山神社に合社され終戦後の経済不況の中、地元の人々の熱烈な哀願により、昭和二十二年四月に分社が行われ、今の清水神社が再建されました。それから早、六十年、四回目の遷宮が執り行われます。

（清水町に伝わる話）

伏拝の松（銭かけの松）の由緒について（現　西方寺住職　藤田信雅さんより聞き取り）

清水の古老によれば、「昔、伊勢神宮へ主君の身代わりになって参拝しようとした武士が、この清水に到着したが、折からの豪雨のため櫛田川が氾濫し、川渡りが叶わず、頼まれた賽銭を松の木に掛け、ここに主君の想いを託し故郷へ帰った。」という説。また一説には、「伊勢神宮参拝を目指した武士が、この清水で病にかかり、参宮が叶わないために、賽銭を当地の松の木に掛け、伊勢神宮に向かって礼拝し、この地で命を落とした。」という説があります。

このようなことから、今はない当時の松を「伏拝みの松」とも「銭掛けの松」とも言うようになりました。清水の人々は高い忠誠心を持った武士の意志を伝えようと、松のそばの土地を整え碑（写真）を建てました。それが今日に至っています。主君の命を受けた武士が残念な気持ちで引き返す姿を思い浮かべながら、是非、碑の前にお立ちいただきたく思います。

シリーズ
市って得する昔の話
山下・安楽・山添について

山下・安楽・山添は明治四十年まで神山村でした。山添の支邑で後分かれて一邑をなしていました。

明治四十一年に神山村が廃され、山添、安楽、山下の三ヶ字が櫛田邑に編入され、八ヶ字になりました。大昔は神山、または神戸と称していましたが、後に山に添って人々が住むので山添に改めたと云われています。

この地一帯は古墳地帯で久米の篤麻呂一族が住んでいたと伝えられ、祝部式の土器、古鏡などが出土しています。安楽にあります安楽寺、西方山無量院といいます。天正の頃、道心者が一字を創立して朝田庵と呼び念仏の道場としました。

天正年間（一六八一～八三年）西野無量院の中興、日誉卓弁上人が安楽寺の寺号をつけて知恩院の末寺となし、その後、安永年（一七七二年）三河国信光明寺の住職が当寺に移住し、芭蕉天満宮の分霊を安置しました。これが世に安楽天神と呼ばれ、命日には参拝の信者が多く、当地方では知られております。

（伊賀町　三宅　忠行）